

曹洞俳壇

選・村松五灰子

通るたび雛のかんむり直しけり

山口県 中井 清子

評 見る度に雛さまの冠が少しずれている。傾かたむきぐせとも言おうか。もしや今まで動いて居られたのでは。慈しみの毎度のお手直しである。表現がさりげなく優しい。

盃にしぐれ蝙蝠安の墓

千葉県 甲斐 勇

評 歌舞伎でお馴染み「与話情浮名横櫛」切られの与三郎の相棒通称「蝙蝠安」。木更津の次男で花柳界を騒がせた放蕩息子で実在の人物。墓にある盃に時雨が点す様が印象深い。

◆一汁に合掌の日日寒を生く 愛媛県 井上 征郎

◆負けて勝つ母の口癖葛湯ふく 三重県 米野てるみ

◆身辺りの覚悟あまたや寒蜺かたな 東京都 矢野 祥子

◆思ひ出の尽きず雛の前に座し 北海道 大野 節子

◆省エネをモットーにてふ賀状来る 神奈川県 小橋 幸

◆二三坪掘り残されし枯蓮田 岐阜県 千藤 恵三

◆冬野菜三和土たたくに余白広くして 愛知県 松井 暁見

◆不如意なる暮らしに笑顔桜餅 和歌山県 田崎よし子

◆冬の虹渡りきれずに消えにけり 長崎県 崎田 定雄

◆食欲の戻りて嬉し寒卵かえま 青森県 高橋 敬子

*選者吟

若葉雨傘の個室を楽しめり

五灰子

*作句小見

俳句は正解がないようだと言われます。算数は2+2は絶対
に4です。しかし絵画や音楽、文芸等には具体的な答が
ありません。俳句は作って作って、そうした中で「目から鱗」
のような小さな開眼が得られる。会得と思っております。

曹洞歌壇

選・長澤 ちづ

菩提寺の庭木整え五十年いとま得て来つ八
十路を迎え
岩手県 穴戸さとる

評 五十年という長い年月が丁寧に詠われ、疎かではなかつた時間の厚みはずしりと読者にひびいてくる。「整え」や「いとま得て」の節度ある言葉の選択がなせる技だろう。読後に清々しい心境が伝わってくる。

唐丸の声を耳にし初社弥彦詣での長き参道

新潟県 星野 三興

評 唐丸は鳴き声の良さを楽しむために新潟で改良された鶏の品種。弥彦神社は越後の国の一の宮。初詣に出かけた産土の神社で唐丸の声を聞き新年を寿ぐ作者。固有名詞が生きる。

◆青きみかん摘果せし日は妻も吾も柑橘の香をまといて眠る
静岡県 菅ヶ谷浩志
◆堆肥撒きいよよ急げる田起しにトラクター始動農のはじまり
山形県 工藤 竹治

◆猪苗代の駅舎の隅の雪上車この大雪にフル稼働せむ
宮城県 須藤智恵子

◆姉の逝き家族葬にて見送る日香り満ちたる庭の白梅
埼玉県 橋本 永子

◆つい最近覚えたメールで入選の句を送りくるふるさとの兄
茨城県 太田 弘美

◆デイケアの七人テーブルの最年長「ぼっちゃん」と呼ばれ人気者です
山形県 多田 さよ

◆暖かい春の日差しにまどろめば確かに聞こえぬ亡き母の
福岡県 松本 享子

◆雪解け水落ち来る音の軽やかに明るき兆し晴のトレモロ
岐阜県 後藤 進

◆磐梯も安達太良山も残雪に光りていたり吾のふる里
東京都 鈴木 正作

◆万華鏡美しきいろ散らしたり同じ象に二度とはならず
東京都 長谷川 瞳

*選者詠

軍用機はな曇りの空とどろかす見上げて首
の凝りはじめぬ
ちづ

*作歌小見

厚木基地が近いので時々軍用機が飛ぶのに遭遇します。雲の低い日は殊に爆音が強くもつと頻繁に飛ぶだろう沖繩のことが想われます。日常の機微を掬い上げ詠うとともに社会や世界へも目を向けたいものです。



大本山永平寺



夏安居げあんご

ここ永平寺では、五月七日から八月九日まできんぞくしゆぎょう禁足修行の期間に入ります。インドでは四月から七月の三カ月間が雨期にあたり、その間は草木や昆虫、小動物の殺生を避けるために、一カ所に集まり坐禅修行に励みました。このことを「夏安居」や「雨安居」または、九十日間の修行を行うので「九旬安居」とも言います。お釈迦さまがご在世の時より行われている安居が、仏祖から仏祖へと正しく伝えられ、現在も変わらず行われているのです。

そして五月十七日には、「首座法戦式しゆそほっせんしき」が行われます。安居中、修行僧のなかで筆頭を務めるお役目の首座は、永平寺のご住職である禅師さまより法を説くことを許され、修行僧たちと激しい問答を交わすことで首座としての力量が試されるのです。

道元禅師さまは『しょうぼうげんぞう正法眼蔵』「安居」巻で、安居は仏祖のおすがたの現れであり真骨頂であり全身心に親しんできたものであると言われ、安居する僧侶を仏祖と作すものであり、「安居」そのものがお釈迦さまであり、お祖師さまなのですとお示しくださっております。

夏安居が始まり、首座を筆頭に修行僧たちは、日々、仏祖の道を歩んでおります。



大本山總持寺



首座法戦式



学校授戒会

だいおんき
大遠忌の学校授戒会じゅかいえ ～目覚めるとき私の中こにいるもう一人の私し～

五月十日～十一日には恒例の学校授戒会が行われます。総持学園鶴見大学附属高校の三年生全員が本山に一泊し、修行僧と一緒に坐禅や朝課を行い、最後に江川禅師さまから親しく御戒法を授かるという大切な行持です。

現在、總持寺は夏安居の最中にて、首座和尚しゅそを中心に約二〇〇名の修行僧が修行に励んでおります。夏安居は約一〇〇日間続き、特に五月十三日～十七日は「制中五則せいちゆうごそく」という行持が行われます。

この行持は宗門の歴史と伝統を受け継ぐもので、しっかりと学び身につけて間違えず、丁寧に行ずることが大切です。

特に「首座法戦式」では、首座和尚が大勢の修行僧と禅問答を交わし、緊張感漲る真剣勝負が展開されます。

今春、上山した新しい修行僧にとっては、戸惑いながらも必死に頑張ってきた、少しづつ僧堂の修行生活に馴染んでくる自分自身を自覚する時期でもあります。

また、五月末には横浜市の「パシフィコ横浜」に於いて梅花流全国奉詠大会が開催されるのに際し、大勢の方々が總持寺へ御参拝に来られます。峨山禅師大遠忌の年でありますので「おもてなしの心」をもってお迎えし、峨山禅師さまの御遺徳に触れていただきたいと思えます。